

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」

たまちゃん通信

令和5年3月発行 No. 359

発行：日本のお手玉の会事務局 〒792-0023 愛媛県新居浜市繫本町8番565号

新居浜市市民文化センター別館1階

Mail: honbu@otedama.jp Tel: 0897-47-6148 FAX: 0897-47-6149

シンポジウム「未来のお手玉」余話 その2

多くの人を魅了するお手玉遊びが世界へ飛翔（山本清洋）

設立30周年記念大会に参加し、お手玉遊びを愛する方々との交流、団体戦の競技、オンライン大会、演舞の観戦、シンポジウムを通して、今後のお手玉遊びを多くの人々へ普及していく灯を改めて再考することが出来ました。お手玉遊びの自分史を含めながら、数回にわたりお手玉遊びの魅力をどんな方法で多くの人々の心に伝えていけばいいのかを述べさせていただきます。

1942年生まれの私にとって子ども時代にはお手玉遊びの経験はほとんどなく、近所の女の子たちが遊んでいたのを目にしたくらいでした。以来、半世紀の間お手玉遊びとは無縁でしたが、2002年の第11回全国お手玉遊び熊本大会に2代目会長の武田信之氏とのご縁で参加したのがお手玉遊びとの邂逅的な出会いになりました。

この大会の1年後に鹿児島お手玉の会を立ち上げ、自らもお手玉プレイヤーとして活動し、自分の生きる世界にお手玉を位置付け、多くの愛好者と熱い交流を続け、自分の生活がお手玉の世界なくしては成り立たなくなるとは想像だにしませんでした。



(写真：お手玉遊び大会の団体戦を見守る観衆のみなさん)

一人の人間を変革させたのはいったい何だったのか

会場全体を飾る大会のポスター、のぼり、音楽、参加者・観戦者の雰囲気、スタッフの笑顔、緊張した競技の中に流れる和やかな雰囲気、競技方法、応援をする老若男女の声援……が作り出す世界は、スポーツの競技世界に身を置いてきた者にとっては、異次元の世界であり、圧倒的に魅了された遊びの世界でした。一人の人間を変革させたのは一体何だったのだろうか？ お手玉遊び大会を作り上げているこれらの何が人を魅了するのか？ 第1回は、お手玉遊びが途方もない魅力に満ちた遊びの世界であることを指摘しました。次回はその謎を解き明かしてゆきます。（日本のお手玉の会副会長・NPO 法人日本子どもと伝承遊び学会会長）